

4-7. 医療機関ヒアリング調査

(1) J A 高知病院

調査日時	平成 24 年 1 月 17 日
調査医療機関	J A 高知病院

ヒアリング内容

1) 通院の概況

- 1日 400 人強の外来患者が訪れる。
- 通院圏は、南国市がメインで、後は高知市東部など。
- 産婦人科、小児科があるので、若い患者も多い。
- 再診は予約制で、8:30~11:30 が受付時間である。
- 南国市には、市民病院がないので、総合病院である本院が市民病院代わりになっていると思う。救急患者は、医療センター、高知大学医学部附属病院へ行っている。

2) 公共交通の活用について

- 病院としては、公共交通（バス）にどんどん入ってもらいたい。しかし、現状を見ると、患者の利用は少ないようだ。便数は減っている。
- 以前、平和観光のバスが入っていて、岸本から赤岡・野市の患者を運んで、よく利用されていたようだが、廃止となっている。
- 安芸線は減便となり、また、久枝から来る便で廃止になったものもある。空港シャトル便が介良に停まれば、少し遠いが通院が可能になると思う。
- バスの便が少ないので、バスの時間に合わせて朝早く再診を予約される方がいる。その方は、帰りの便の時間もあるので、診察時間が長引くと心配しているようである。
- タクシーは、4社が入っており、常時3台程度待機している。
- 病院として公共交通を利用した患者に、運賃の割引など何らかの支援というのは考えられない。

(送迎バスについて)

- 病院をこちらに移転する際、後免駅との間に、シャトルバスを走らせようとしたが、取りやめになった経緯がある。

(2) 吉川診療所

調査日時	平成 24 年 1 月 17 日
調査医療機関	医療法人節紀会 吉川診療所

ヒアリング内容

1) 通院の概況

- ・奈路の患者は多いが、上倉など奥の患者は数名である。

2) 交通手段について

- ・地域の高齢者は、現在、生活の必要上運転している。家族も生活活動度が低下するのを予防する意味で、高齢者の運転を黙認している。しかし、高齢者ドライバーの問題は、全国的に問題となってきた。 (公共交通での対応が必要との認識)
- ・通院に関しては、自家用車を本人、家族が運転してくるケースがほとんどで、それ以外はタクシー利用である。
- ・奈路線のバスで来る人もいるが、来院時の片道しか使えないので、帰りはタクシーである。来る時は、家人の車、帰りはタクシーというケースもある。

3) 公共交通の活用について

- ・奈路にバス路線があるといっても、1日に3便ぐらいしかないもので、実際には使われていない。

4) 乗合タクシー (デマンド運行) について

- ・往診ニーズは、人口に比して、北部地域が高い傾向を示しており、それは北部に公共交通ニーズがあることを示していると思う。北部地域では、5~6人の方を往診しているが、乗合タクシーがあれば、通院に利用できると思う。

(上倉、中谷での乗合タクシーに関して)

- ・この地域は、無医地区に指定されているので、乗合タクシーを走らせる意義があると思う。
- ・公平性の観点から言うと、外山、天行寺からの患者も含めて北部山間部に40人くらいいて、足がなくて困っている。道路が狭いが、ワンボックスなら行けるので対処してほしい。

(運行形態について)

- ・道路の道筋に人口が張り付いている地域、たとえば上倉・中谷は10人、奈路は、40~50人と多いので、乗合タクシーは適しているだろう。
- ・県道から各々の住宅が、離れている集落、たとえば白木谷のようなところは、タクシーチケット制が適しているだろう。